

「検討にあたっての参考資料」に対する主な意見と対応について（2）

項目	主な意見	県教委作成の考え方	対応
計画全体の基本的な考え方について	計画全体の基本的な考え方を、基本理念、基本目標、施策の前に示すべき。	○現在は、次期ビジョンの趣旨、位置付け、計画期間等について冒頭に記述している。基本的な考え方をまとめた記述はないので、必要に応じて全体を総括する部分を前段部分に記述する。	
基本理念・基本目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念の文言が具体的過ぎてわかりにくい。教職員、市町村教委等に向けてわかりやすい文言とした上で、趣旨や基本目標において具体的に示すべき。 ・基本理念に、島根県のポジティブな要素（地域資源の活用など）、地域との連携を深めること、大きな目標に向かって個性を开花させるような人材を育てること、といった趣旨を入れるべき。 ・基本理念の「自立して生きていくことができる」のところは、今の子どもが自立して生きていない、というネガティブな背景が前提になっていると感じる。自立して生きていくというのは、目標が小さいのではないか。 ・基本理念の「ふるさとを愛し」のふるすとは狭い里山をイメージして、視野が狭すぎる印象がある。「島根を愛し」としてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現行ビジョンの基本理念は、本県が目指す教育の根本となる考えとして一定の普遍性を有していると考え、受け継ぐこととした。 ○高校卒業後約3500人(H25)が県外に流出し、将来の地域活力低下が懸念される現状を踏まえ、「ふるさとを愛し」を挿入した。 なお、現行ビジョンにも副題として「ふるさとを愛し、未来を切り拓く子どもを育む」という文言がある。 ○加えて改正教育基本法の趣旨も考慮した。 ○現行ビジョン ()内は2期ビジョンで変更または追加した部分 <p>生きる喜び、学ぶ楽しさを通して、一人一人の可能性を开花させ、 (ふるさとを愛し、)社会の一員として自立して生きていくことができる子どもを(人)学校、家庭、地域が連携して育む</p>	

項目	主な意見	県教委作成の考え方	対応
<p>施策の柱立てについて</p>	<p>施策（１）～（５）の５つの柱という出し方がいいのか、違う構造にした方がいいのか。</p>	<p>○施策（１）（２）… 改訂された学習指導要領を踏まえて、子どもたちの「生きる力」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育成する施策として設定した。密接に関連する「心」と「体」の育成は併せて一施策とした。</p> <p>○施策（３）… 人権の尊重は教育の目的の基本であることから、学校における人権に関する教育を施策として設定した。</p> <p>○施策（４）… 施策（１）～（３）を学校教育において実行する上で、基盤となる信頼される学校づくりを施策として設定した。</p> <p>○施策（５）… 施策（１）～（４）の学校教育に加えて、子どもから大人まで県民全体を対象とした生涯にわたる教育を施策として設定した。</p>	
<p>「自立を目指すしまねの子ども教育」について</p>	<p><表題について></p> <p>「自立を目指すしまねの子ども教育」というタイトルでいいか。</p> <p><最終目標について></p> <p>「社会的・職業的自立とふるさとへの貢献」を最終目標としていいか。</p>	<p>○基本理念で『自立する人』を定めており、就学前から高等学校までの段階は、この『自立する人』を目指して、子どもを学校、地域、家庭が育む段階であること。また、子ども自身も努力することを強くイメージしてこのタイトルとした。</p> <p>○この取組の目的（高校卒業時に身につけてもらいたいもの）として設定し、目標（計画期間で達成する状態）として学力の育成・社会性の育成・ふるさと意識の醸成とした。</p> <p>○いずれも基本理念から引いたもので、強くキャリア教育を意識した。</p>	

項目	主な意見	県教委作成の考え方	対応
<p>「自立を目指すしまねの子ども教育」について</p>	<p><社会性について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の「社会性の育成」については、社会性とした方がいいのか、コミュニケーション力とした方がいいのか。 ・地域の課題をもう少し中心に置いて、それを解決できるように、対人性、対人関係力、地域を基盤としたコミュニケーション力を大事にすべき。 	<p>○社会性は、社会的な生き物である人間が社会生活において良好な人間関係を形成し、円滑に維持するために必要不可欠な人格的な特質である。人間が社会化される過程を通して獲得されるもので、自ら備わったものではないとされている。</p> <p>○社会性の具体的な例として、他者に対して適切な対応ができる、集団の中で協調的に行動できる、仲間から好意を受けたいという欲求を持つことや仲間として認められたいという欲求を持つこと、時代の情勢、風潮に関心を寄せること等があるとされている。</p> <p>○また、社会性とは異なるが、公共心や規範意識などもこの中に含めて考えている。</p> <p>○本県の現状と課題の「規範意識・社会性の状況」で述べたように、全国と同様に多くの課題がある状況。子ども達が社会に出た時に、自立して生活ができるために、就学前から高等学校の段階で家庭・学校・地域が連携して社会性を育む必要性が高いと判断し、目標の一つとした。</p>	
<p>学力について</p>	<p><適度な学力の競争について></p> <p>小学校、中学校では、適度な競争がないと、教育をやっても伸びない。もっと適度な競争が必要ではないか。</p>	<p>○好ましい人間関係の中で、切磋琢磨することは必要である。</p>	

項目	主な意見	県教委作成の考え方	対応
学力について	<p><学校の工夫への支援について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ力を引き出す工夫を行う学校に対して一定の支援をし、個々の学校経営に主体性や個性を出させることを支援してはどうか。 ・学んだ力というのは一定程度の標準に達しなければいけないが、学ぶ力の育て方はかなり工夫のバリエーションがあり、活性化していくべきではないか。 	<p>○学力の育成は、学校教育の最も基本的な使命と考えている。</p> <p>○学力を知識、技能、問題発見・解決力、討論力など「学んだ力」と学習意欲、知的好奇心、学習計画力などの「学ぶ力」の総体ととらえ、学ぶ力と学んだ力が相互に作用し、善循環となる状態を目指している。</p> <p>○本県の学力の状況は、学力調査等の結果では、平均正答率が低い、成績上位層が全国平均より少ないなど大きな課題がある。また学習意欲についても低い状況にあると考えられる。</p> <p>○また、授業における目当て、まとめの不足などの授業内容や研修等の成果の定着が不足しているなど研修等の課題もある。</p> <p>○そのことを踏まえ、自立を目指すしまねの子ども教育においても、社会的自立・職業的自立を果たすため『学力の育成』を重点化している。特に学ぶ力の育成が重要であると考えている。</p> <p>○一方、学力調査で評価しやすい知識、技能をものさしに学力を評価することの危険性も考慮する必要がある。学力育成の取組にあたっては、この点に留意する必要がある。</p>	対応
ふるさと教育、家庭・地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域との連携・一体化など、ふるさと教育の次なる目指す姿を示すべき。 ・学校を単なる子どもの教育の場としてではなく、子どもの教育を通じた地域住民の生活文化の拠点として地域連携に取り組むべき。 ・ふるさとを愛する子どもを育てるとともに、大人の育成（社会教育・PTA活動等）、組織との連携等が必要ではないか。 	<p>○今後、小中を通じた発展性・系統性のあるふるさと教育の推進や学校と地域の連携をさらに密にし、学校を支援する地域の体制整備などに取り組んでいく。</p> <p>○地域住民がふるさと教育に関わることで、身につけた知識や技能などの成果を生かす場となっており、学校が地域住民にとっても活動の場となるような取組を充実させていく。</p> <p>○公民館等で、地域住民を対象としたふるさとについて学ぶ講座や、地域の課題について学び解決していこうとする取組が行われており、これらの取組を充実させていく。</p>	対応

項目	主な意見	県教委作成の考え方	対応
離島・中山間地域の取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・離島・中山間地域など過疎地域における教育力の確保、高校の魅力化・活性化、本物の文化・芸術に触れる機会の提供のための取組が必要ではないか。 ・離島・中山間地域の小規模校だからこそできる教育や学校の在り方の確立を目指すべき。 	<p>○離島・中山間地域の特性を活かした教育の推進の中には、文化や芸術に関することも含めて考えている。</p> <p>○少人数指導など小規模ならではのメリットの活かし方、地域と連携した学校の在り方についてそれぞれの学校で工夫することは、まさしく地域の特性を活かすことだと考えている。</p>	